うんなん

編集・発行
島根県立三刀屋高等学校
雲南会
電話（0854）45－2721
郵便振替口座 01380-3 89688

開校一〇〇周年記念式典　開催！

四月十七日三刀屋高校は、「歴史をかえりみ新たにいま、社会に立たん健やかに」をテーマに、三刀屋町文化体育館アスパルで、厳粛且つ盛会裡に本式典を挙行しました。

挨拶　これまでの100年。これからの100年。

一〇〇周年記念事業推進委員会
会長　佐藤　茂
（雲南会会長）

［要約］

悴（かじか）んでいた梢の先から木の芽が一斉に吹き出し、まるで冬の間体内に溜め込んでいた気力を一気に空に向かって放出するかのような、生命力を感じる季節を迎えました。

本日、こうして晴れの式典を催すに当たって御臨席賜りました丸山知事初め来賓の皆様方、ご参会の皆様、地域の皆様に心より厚くお礼申し上げます。それでは記念事業経過報告に続き、事業推進委員会を代表して、事業全体の大綱について申し上げます。

事業のコンセプト（底を流れる思想）は、校歌一・二番から**「歴史をかえりみ新たに今、社会に立たん健やかに」**としました。さらにこれを具体化するために、私達「委員会」は、四本の柱（※構想段階ではイメージし易く**「骨格」**と説明、以来事業は進展、**「柱」**に言い換え）を設けました。

第一の柱は「一〇〇年の歴史を回顧し、本校誕生の背景と伝統の重みを学校の内外に問うものにする」ということです

本校の前身旧制三刀屋中學は、大正十二年文部省の認可を受け、島根県五番目の中學校として創設されました。一番最初は松江中學、次いで浜田、杵築（大社）大田と続き、五番目が三刀屋、因みに六番目は津和野ですが、三刀屋以外は全て城下町・門前町、或いは銀の採掘・積み出し港として栄えた町並みと一定の人口があったものの、この地雲南は「僻陬の地」とだけ史書に記されています。

当時ここ雲南から上級学校へ進みたい生徒は松江か大社へ出るしかなく、この社会問題に立ち上がった方々が三人いらっしゃいます。

地元鍋山の医師・藤原薫県議会議員と、三刀屋の十二代松尾清三郎郡会議員、そしてお二人の政治活動に感銘を受け精神的経済的支援をなさったのが吉田村の二十一代田部長右衛門氏でした。しかし、この三人のお力とこれを支えた地域住民の熱い輿望を以てしても事は容易ではなく、情勢はさらに悪化します。明治三十三年の運動開始直後日露戦争が勃発、続いて二つの内閣が総辞職、大正に入るや日本はドイツに宣戦布告…こうした世情の混乱の中、大正十二年十二月二十七日本校は文部省から設立を認可されましたが、実はその四ヶ月前わが国は壊滅的大惨事に遭遇します。―あの関東大震災です。こうした混沌たる社会情勢と数多くの苦難にあって、猶且つ住民の力が結集され、本校は斯くして誘致運動開始から実に苦節二十四年、遂に〝開校〟に漕ぎ着けたのです。

扨、**二本目の柱は「地域の総力を結集する事業推進母体を作る」**ということです。一例を挙げれば「どこに学校を作るか」という存置運動です。まず大原郡は諸事を鑑み三刀屋推薦をいち早く固め、雲南圏域が一つになって誘致への協同歩調を取る決意をしたこと、一〇〇年前のこうした結集の仕方に学び、私どもは事業推進の母体構成に当たってこのことに学び斯かる地域の行政当局に働き掛け続けました。

次、**三本目の柱は「式典の在り方を考え、本校の独自性を生かす」**ということです。その爲㈠この式典を、「創立」でなく「開校一〇〇周年」と呼ぶことにしました。「創立」とは「初めて創る」こと、「開校」とは「その学校が初めて授業をする日」、大正十三年の四月十七日、前身三刀屋中學校第一回目の入学式が十時から行われ、五十五名の生徒が三倍の競争率を突破して入学した―と校史にあります。私達推進委員は、丁度一〇〇年後の今日この日・四月十七日・十時～この式典を行い、その上で式典を「開校100周年記念式典」と呼ぶことにしたのです。

最後の**四本目の柱は**、このようにして**「地域に力強く支えられて来た三高教育」を体現するため、記念事業の全てを地域の方々と共に行う**―ことです。三人の先覚者の高い見識と地域の方々の誕生への思いと期待を、もう一度この事業でここに再現するために―です。

以上ここまでがコンセプトの前半です。ここからは後半のフレーズ**「社会に立たん健やかに」**についてです。

旧制中學校歌の三番は「（道を正しく強く踏みしめ）此の日本（ひのもと）の運命をいでや担わん健男児」―この日本国の運命を、さぁさぁ担おうじゃないか、（国家・社会建設の力になろうじゃないか）と歌っています。

実は皆さんの学校は、あの困難な苦しい時代に、郷土の住民の手に依って誕生しました。そして「わが国と社会の建設を担おうよ」というまでの校歌を歌って卒業していった数多くの先輩達がいました、・・・あれから一〇〇年、在校生の皆んなは今その席に座っていて、何を考えているでしょうか？

その思いはきっと様々でしょうが、今日**此の日の思い出はこれから君達が人生の途上において困難に出会ったとき、いつも君達の側にあって、あなた方を支え励ましてくれるかも知れません。・・・**もしこの式典及び事業に意味があったとすれば、私どもが郷土一〇〇年の夢を君達に正しく伝え、その夢の続きを再び君達に託せたか―恐らくこの一点に尽きると思うのです。

どうか、この学校での残された高校生活を、誇らしく、精一杯楽しんで過ごしてくれるよう願っています。

以上、一〇〇周年記念事業推進委員会を代表としての冒頭の挨拶とします。

㊟本文の表題は、当日の「山陰中央新報」掲載広告のキャッチフレーズに依ります

式辞

校長
本間　達也

本日、緑かがようこの佳き日に、島根県知事・丸山達也様、島根県議会副議長山根成二様、雲南市長石飛厚志様をはじめ多数のご来賓の皆様にご臨席を仰ぎ、ここに島根県立三刀屋高等学校開校一〇〇周年記念式典をかくも盛大に挙行できますことは、この上ない大きな喜びであります。教職員を代表し心より御礼を申し上げます。

さて、本校は、今から一〇〇年前の一九二四年、大正十三年のまさにこの日この時刻、現在も三刀屋高校の校舎がそびえる雲南の高台に県内五番目の旧制中學校として五十五名の入学生を迎え開校しました。生徒の皆さんは、開校初年度の入学生五十五名の方々の

希望とやる気に満ち溢れた熱い〝一一〇の瞳〟を思い浮かべてもらいたいと思います。雲南地域の学生にも現在の大学にあたる高等教育の道を拓くべく中心となって尽力されたのが、藤原　薫氏、松尾清三郎氏、第二十一代田部長右衛門氏の三名の方々です。本校開校により雲南地域から上級学校進学への道が拓かれ、進路選択の可能性が大きく広がるとともに、雲南地域の発展に大きく寄与することとなりました。

一九四八年、昭和二十三年には、戦後の学制改革により島根県立三刀屋高等学校と改称、翌年からは男女共学制の学校となり、進路選択の可能性がさらに広がりました。その後、頓原分校の開設分離、定時制課程の併設や募集、あるいは家庭科の新設や募集停止、掛合分校の開設、総合学科への改編など数々の歴史を刻みながら、これまで一万七千名を超える有為な人材を社会に輩出してまいりました。卒業生の皆様が、国内外の様々な分野でご活躍になり、高い評価を受け貢献されている姿は、私たちにとっても大変名誉なことであります。

開校一〇〇周年を迎える今年は、本校が県内唯一の普通科をベースとした総合学科の学校として生まれ変わってから二十周年という節目の年でもあります。総合学科改編の翌年、総合学科棟竣工式に合わせて挙行された創立八十周年記念式典式辞において、第二十八代景山寛校長は、総合学科について次のように述べています。「総合学科につきましては、将来の職業選択を視野に入れ進路への自覚を深め、生徒一人一人の個性を最大限に生かす学科であります。本校の総合学科は、普通科の基盤を踏まえ、『進路目標を、個に応じてより高いレベルで実現すること』を目標にしています。職業観・勤労観を育み自己実現を図る総合学科の設置は、これから巣立ちゆく生徒の皆さんが大きな社会の中で力強く生きていくための基盤を育てる礎となるものと確信しております」と。

本校は、開校以来の校風・校訓とともに、総合学科改編時の「進学から就職まで多様な進路志望を見据え、一人ひとりの希望や個性に対応できる教育を実現する」という考え方も大切にしながら探究学習等の教育活動にあたってまいりました。この間、二〇一三年、平成二十五年二月には「キャリア教育優良学校」として文部科学大臣表彰を受けるなど、まさしく島根県のキャリア教育のリーディングスクールとして成長を続けています。

部活動も目覚ましい活躍を見せています。一九八二年、昭和五十七年開催の「くにびき国体」において三刀屋町が少年男女ソフトボール会場に決定したことにあわせて創部された男子ソフトボールは「くにびき国体」で準優勝以来、女子ソフトボール部とともに毎年のように全国大会に出場、一九七八年、昭和五十三年に念願の甲子園出場を果たした野球部は昨年度開校以来初のプロ野球選手を輩出、二度目の甲子園出場を目指しています。このほか昨年度の県総体第三位、新人戦でもベスト４に進出するなど近年躍進著しいサッカー部、昨年度部に昇格し市内各地のイベントに数多く参加しているダンス部など多くの部活動があります。文科系の部活動では、地域をフィールドとしてオリジナリティあふれる活動を精力的に展開するＪＲＣ部、昨年度の全国高校総合文化祭「２０２３かごしま総文」で第二位となる「優秀賞」「文化庁長官賞」の成績をおさめ、八月には国立劇場で開催された「全国高総文祭優秀校東京公演」にて大トリの大役を務めた演劇部は『ローカル線に乗って』を上演しました。又、前年度に「永井隆物語」を上演し、地域に内在する課題等を高校生の視点で見つめなおし、地域資源を再評価していこうという動きにつなげようとしています。東京公演後には、県外在住の卒業生の方から「帰省するたびに老いて寂れていく故郷に心が痛んでいましたが、若い後輩たちという財産があることに気が付きました。ただただ母校を懐かしむだけでなく、そんな後輩たちを出来るだけ支援していきたいと思っています。」というお言葉もいただきました。本校の存在と生徒の活躍が、地元地域の皆様のみならず、地元地域を離れていらっしゃる皆様に対しても、活力をお与えすることができていることを実感しました。

総合学科である本校の強みの一つは「多様性」だと考えています。総合学科ならではの多様な設定科目、就職から進学までの多様な進路選択、そして文科系・体育系あわせて二十四の多様な部活動・同好会。「多様性」は選択肢の多さに直結し、生徒の皆さん一人一人の可能性の広がりに繋がっていきます。しかし、開校までの歴史を踏まえると、この地に三刀屋高校があること、そのこと自体が多くの可能性を秘めた生徒の皆さんのチャレンジを後押しできる教育環境といえます。

昨年度から本校の合言葉を「向き合う。その先に…」としています。開校一〇〇周年を迎え、一〇〇年前の先人の願いや総合学科開設当初の思いに「向き合う」ことにより、校歌にある「歴史をかえりみ新たにいま」のとおり三刀屋高校の目指すべき新たな世界が開けていくと考えます。三刀屋高校が「ここにあること」、生徒の皆さんが「ここにいること」の意義を見つめ直し、この地域に三刀屋高校があってよかったと感じていただけるような学校づくりを地域・保護者・卒業生の皆様と協働していきながら進め、次の一〇〇年に向け「われらの三高ここにありとひとしくともに誇るべし」と思える学校となるよう教育活動につとめてまいります。

最後になりますが、この度の開校一〇〇周年を記念して、本日の記念式典をはじめ数々の記念事業を行うにあたり「開校一〇〇周年記念事業推進委員会」を組織し、献身的に取り組んでいただきました雲南会、体育後援会、ＰＴＡの皆様方に重ねて厚く御礼申し上げますとともに、本日ご臨席賜りました皆様方には今後とも一層のご指導とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げ、式辞といたします。

【式典式次第並びに登壇者】

一　開式の辞
　板垣悟史　教頭
一　国歌斉唱
一　物故者への黙祷
一　一〇〇周年記念事業概要報告
　石倉智之　事務長
一　記念事業推進委員会会長挨拶
　佐藤　茂　雲南会会長
一　校長式辞
　本間達也　三刀屋高校校長
一　島根県教育委員会教育長挨拶
　野津建二　県教育長
一　来賓祝辞
　丸山達也　島根県知事
　山根成二　島根県議会議長代理
　副議長
一　創立功労者顕彰
　藤原憲一　氏
　松尾健五　氏
　田部長右衛門　氏
一　来賓紹介
　米田大祐　主幹教諭
一　生徒代表挨拶
　桑原大河　生徒会長
一　旧校歌斉唱
一　現校歌斉唱
一　閉式の辞

司会・進行

本校39期卒業生

BSS山陰放送
アナウンサー
木野村　尚子

報告

事務長
石倉　智之

(1) 組織体制及び計画について
(2) 具体的な準備経過について
(3) 記念事業の資金について
(4) 本校教育活動を支援する施設・設備・器具等の工事及び購入について

挨拶

県教育長
野津　建二

本日ここに島根県立三刀屋高等学校開校一〇〇周年記念式典が挙行されるにあたり、学校設置者である島根県教育委員会から一言ご挨拶を申し上げます。ご来賓の皆様にはご多用の中ご臨席を賜り、また平素から学校の運営に多大なご支援ご協力をいただいておりますことに心より感謝を申し上げます。三刀屋高等学校は大正十三年に開校以来一万七千名余の卒業生を輩出され、地元地域はもとより県内外の様々な方面、分野、多種多様な職域において活躍されています。今日まで学校の発展に尽力してこられた歴代校長を初め、教職員の方々に心から感謝を申し上げますとともに、卒業生や後援会をはじめ地域の皆様、多くの関係の方々のご理解とご支援に対しまして深く敬意を表します。県立三刀屋中學校として大正十三年に開校し、昭和二十三年には三刀屋高等学校に改称するとともに頓原分校を開設、翌二十四年に定時制を併置、その四年後には家庭科の新設と掛合分校の開設、その後三十八年頓原分校を飯南高校へ吸収し、新しく掛合分校に全日制普通科を設置するなど幾多の再編を経て今日を迎えました。生徒数の増減や社会情勢の変化は、本校教育にも大きな影響をもたらしましたが、平成十六年度新一年生から順次学年進行で導入した「普通科系教科等を主体とする総合学科」の新設は、多様な進路実現に対応し、地域と連携・協働する探究活動を通して未来を創造する人材を育成しようとする大きな再編と言えます。私が学校教育で大切にしたいことの一つに、子供たちの選択肢を拡げる、子供たちの将来の選択肢を大きく拡げることがあります。生徒の皆さん、皆さんがこれから進路を選択する際には、多様な選択が可能となる確かな学力の育成や目指したい方向へのしっかりとした興味・関心の育成が必

要となります。そのためには「分かる楽しさ」を数多く経験することが必要です。その積み重ねが興味・関心の広がりにつながり、次の学びの種となります。その種を成長させるために、自分の言葉で説明する、あるいは自分の言葉で尋ねるといった「自分の言葉化」を大切にしてほしいと思っています そのことが思考過程を整理し、理解を深め、次の問題への意欲につながり、新たな学びに挑んでいく姿勢となり、また、これからの時代に求められるコミュニケーション力や表現力、そして協働する力の育成に重要であると考えます。県教育委員会としては、生徒の皆さんが島根に育ち学んだ自信を胸に、自らの人生と未来を切り拓き、夢や希望を実現できるよう学校、家庭、地域、行政など教育にかかわるすべての人々が一体となった教育の振興を図っていきたいと考えています。

結びに、三刀屋高等学校のさらなる飛躍と発展、そして在校生はもとより卒業生をはじめ、関係の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

祝辞

島根県知事　丸山　達也

本日、まさに日時ともにぴったりのタイミングで島根県立三刀屋高等学校の開校一〇〇周年の記念式典が在校生の皆様、卒業生雲南会の皆様、多くのご来賓の皆様のご臨席のもとで盛大に開催されますことをお喜び申し上げるとともに、百年にわたりましてこの三刀屋高校の発展にご尽力いただきましたすべての皆様のご尽力と貢献に対し、心より感謝と敬意を表するものであります。

先ほど推進委員会の佐藤会長から創立、開校の経緯をわかりやすく紹介いただきまして、勉強になりました。今、県立高校をつくろうと思えば、島根県と島根県教育委員会が決めれば開設ができますけれども、当時は文部大臣の認可事項であります。これは今の大学に相当いたします。そしてパンフレットにも書いてありますけれども初代の校長先生は京都の福知山の中学校から招聘されておられます。つまり学校の先生をそろえるにも島根県内だけでは足りない大事業だった。そして、この学校を建てるにあたりましても、この運動そして用地、建物につきまして、本日ご臨席賜りました藤原家、松尾家、田部家の大変なご尽力がなければ実現できなかったということであります。今、飽食の時代、食べることについて困ることがないと言われますけれども、我々の学ぶことについても昔に比べるとその学ぶ先ということに困ることはあまり無い時代になっております。けれども当時というのは、その上級の学校、つまり今の大学に相当する学校に進んでもらうというために必要になる、この旧制中學に進学してもらおうと思うと松江、大社に下宿をさせた上で勉強させられる余裕のある家庭でないとその道が閉ざされるという時代だった。その厳しい状況を改善すべく、この地域の皆様方が一体となって、そして篤志家の皆さんのご協力を得て、この城下町でもない、門前町でもない、代官所がある町でもない、この雲南の地で初めての旧制中學を設立されたというのは、本当に他の地域にとっても励みになることだったと思いますし、この地域の皆さんが自分たちの子供さん方のために、その可能性を広げるために二十四年もかけて諦めずに頑張ってこられたということを、改めてこの一〇〇周年において噛みしめることができたということは本当に大事なことだと思います。私も学生時代そうでしたけど、勉強するのが嫌だとか、部活動もうまくいかなくて嫌だなと思ったりすることも当然在校生の皆さんもあると思います。あると思いますけども、そういうことを経験できること自体が貴重であるという原点に立ち返って、ぜひとも在校生の皆様方には勉強、運動、部活動、さまざまにこの学校で経験できることを最大限吸収していただいて、将来の選択肢を広げていただき、この地元または島根県そして日本、また世界に向けて様々な場所で活躍できるように、ぜひとも学生生活を充実したものにしていただいて、頑張って頂ければと思うところでございます。そして、今回の一〇〇周年事業については、記念式典に加えまして、学校の設備・環境を大幅に充実していただいております。ＩＣＴルームの新設また調理室のエアコンの設置、トレーニングルームの整備など本来であれば島根県がお金を用意してやらなきゃいけないところですが、関係の皆様方、実行委員会の皆様方、推進委員会の皆様方、多くの皆様方のご賛同・ご協力をいただいて、三刀屋高校の教育環境の充実に一〇〇周年事業を契機に多大なご支援を頂戴いたしましたことを、心から感謝を申し上げるしだいでございます。本当にありがとうございます。ぜひともこの環境の充実をかみしめながら、生徒の皆様方が勉学また運動に励んでいただければと期待するところでございます。

結びになりましたけれども、本日の一〇〇周年の記念式典を契機として、これまでこの地域の発展にかかせない有為な人材を輩出して来られました三刀屋高等学校が益々発展をされ、そして在校生そして卒業生の皆様方がますますご健勝にてご活躍されますことを心よりご祈念申し上げまして、はなはだ粗辞でございますけれども一〇〇周年の記念式典に当たりましてのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

一〇〇周年誠におめでとうございます

祝辞

島根県議会議長代理　副議長　山根　成二

皆様おはようございます。本日は三刀屋高校開校一〇〇周年記念事業の開催、誠におめでとうございます。本日は議長が参りましてお祝いを申し上げるべきでございますが、所用のためこちらに来ることができません。私は県議会の副議長の山根と申しますが、議長からのメッセージを預かっておりますので代読させていただきます

島根県議会を代表いたしまして一言お祝いを申し上げます。島根県立三刀屋高等学校開校一〇〇周年、誠におめでとうございます。わが国は急速な少子高齢化の進行、グローバル化、デジタル化の進展などを背景に、社会構造が急速に変化してきており、社会経済活動のあらゆる場面において社会を創造的に変えることができる柔軟で新しい発想を持った人材が、求められています。こうした中、本校は県内で唯一の普通科をベースとした総合学科の高校として多様な進路希望に対応したカリキュラムやキャリア教育、地域と連携・協働した探究学習などを通して、確かな学力と社会貢献力を持った未来を創造できる人材の育成を行っていると伺っております。また、かつては①自主的人格の陶冶、②科学的実践人の育成、③公民的資質の涵養、この三つを教育活動の柱とされてきたところであります。在校生の皆さんには、時には先輩方の胸に残るこの三つの柱に想い巡らしていただき、そして常日頃から社会のさまざまな出来事に関心を持って、自ら考え、行動し、無限の可能性を信じて自己実現と社会貢献ができる社会人へと成長されることを期待しております。関係者の皆様におかれましては、開校一〇〇周年という節目を契機として引き続き本校の歩みを止めることなく、創造性にあふれた個性豊かな子供たちを育成するため、より一層のご尽力を賜りますようお願いをいたします。私ども県議会といたしましても、これからの島根、そしてこれからの日本を担う人づくりのため、本県教育の一層の充実に取り組んでまいる所存であります。

結びになりますが県立三刀屋高等学校の益々のご発展と本日ご臨席の皆様方、関係者の皆様方のご健勝とご活躍を祈念致しましてお祝いの言葉といたします。

以上が議長からのメッセージでございますが、大変すみません、私からも一言付け加えさせていただきたいと思います。

実は、私は三刀屋高校　本校の卒業生であります。ちょうど 五十五年前に本校を卒業いたしました。本校が、母校がこうやって一〇〇周年を迎えたことにまさに万感の思いがするところでございます。ちょうど私が在校したときに今の校舎、これが建設される真最中でありました。高校の三年間は、その建設の騒音の中に三年間暮らしたというのが私の思い出であります。卒業してからのちに、先ほど校長先生からご紹介ございましたように野球が甲子園に出場したり、ソフトボール部が全国的に活躍されたり、あるいは演劇部等々さまざまな部活動が活発に展開されていることを本当に先輩として、卒業生として嬉しく思っているところでございます。三刀屋高校の卒業生は一万七千人を超え、全国的に活躍していらっしゃいます。まさに『我らが三高ここにあり』という感じが致します。在校生の皆様におかれましては、どうか高校生活を思いっきり満喫していただき、そして『健やかに社会に立たん』という人材となられまして、本校の新しいページを飾っていただくことを強く希望するところでございます。本日の一〇〇周年を契機と致しまして、三刀屋高校がさらに発展しますことを心から祈念申し上げまして、お祝いのご挨拶といたします。おめでとうございました。

（「蒼雲館」入口）

創立功労者顕彰

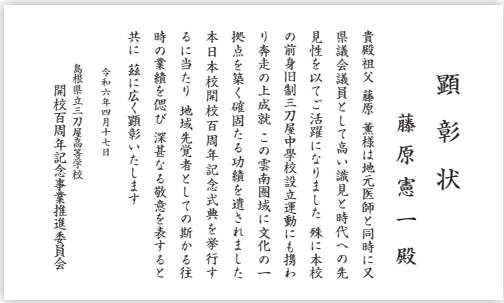
本校創立に多大な功績を残された三方のご子孫をお招きしての顕彰は、式典後半で行われました。この度受呈された藤原憲一氏、松尾健五氏、田部長右衛門氏それぞれに、約「五市」サイズの顕彰状に、寸五巾金雲の額を装丁した「顕彰状」竝びに高さ21㌢の「盾」が事業推進委員会名で贈呈されました。

◀顕彰盾

藤原　薫 氏

【経歴】
明治８年　飯石郡鍋山村生まれ
21歳で医学得業士、鍋山村で医者を開業
明治33年　北里伝染病研究所入所
再び鍋山村にて開業医、飯石郡医師会長
明治44年　優紹紀念飯石郡結核予防協会設立
大正７年　県会議員に推される
大正10年　興学会副会長
大正15年　第10代島根県医師会長に選任

大正10年当時、雲南の地に中堅人物を養成し、上級学校への門戸を開く中学校の設置が急務であると考え、県会議員として議員の賛同を得、関係者を説得すべく、また上京し文部省に設立を請願するなど、政治的交渉を度重ねた。三刀屋中學校の実現のための政治的活動としては藤原薫県会議員に負うところは大きなものがあった。三刀屋中學校創立時には、初代学校医となった。


顕彰状

藤原憲一殿

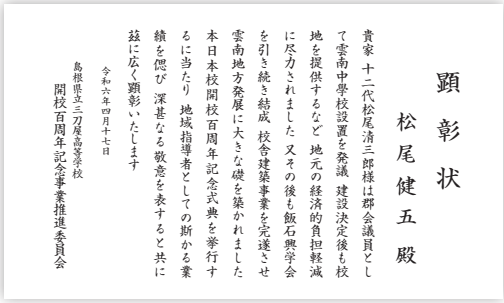
貴殿祖父　藤原　薫様は地元医師と同時に又県議会議員として高い識見と時代への先見性を以てご活躍になりました　殊に本校の前身旧制三刀屋中學校設立運動にも携わり奔走の上成就　この雲南圏域に文化の一拠点を築く確固たる功績を遺されました
本日本校開校百周年記念式典を挙行するに当たり　地域先覚者としての斯かる往時の業績を偲び　深甚なる敬意を表すると共に　茲に広く顕彰いたします

令和六年四月十七日
島根県立三刀屋高等学校
開校百周年記念事業推進委員会

松尾 清三郎 氏

【経歴】
明治13年　飯石郡三刀屋村生まれ
栄福合資会社を設立、三刀屋村信用組合長
大正５年　郡会議員に当選
大正10年　自らの土地を中學校の敷地として提供
　　興学会副会長

郡会議員として、雲南地方に中等學校の設置の必要性を痛感し、大正９年通常郡会に「雲南中學校設置建議」を発議し、翌年県知事に建議された。中学校設置運動を郡会議員として率先し、県への陳情を行った。
敷地及び校舎の建築費が地元負担になる事態を憂慮し、自らの土地であったところを中學校の敷地として提供した。
また、飯石郡興学会を組織し、副会長の要職を務め、中學校設立運動から、校舎完成まで携わった。


顕彰状

松尾健五殿

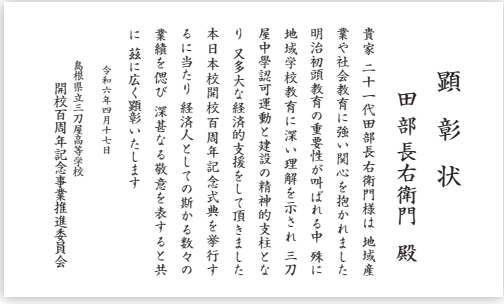
貴家十二代松尾清三郎様は郡会議員として雲南中學校設置を発議　建設決定後も校地を提供するなど　地元の経済的負担軽減に尽力されました　又その後も飯石興学会を引き続き結成　校舎建築事業を完遂させ雲南地方発展に大きな礎を築かれました
本日本校開校百周年記念式典を挙行するに当たり　地域指導者としての斯かる業績を偲び　深甚なる敬意を表すると共に　茲に広く顕彰いたします

令和六年四月十七日
島根県立三刀屋高等学校
開校百周年記念事業推進委員会

二十一代　田部 長右衛門 氏

【経歴】
嘉永３年　能義郡母里村生まれ
明治７年　田部長右衛門周重の養嗣子
明治17年　飯石郡選出県会議員
明治23年　貴族院議員
明治30年　農工銀行設立委員
明治32年　県農会名誉会員
大正15年　県立三刀屋中學校建設費寄付に対して、紺綬褒章飾版を下賜される

教育への熱意が強く、松江高等學校へ設備費を寄付したり、社会教育として福岡県より篤農家を招いて稲作改良に努めたりした。
雲南の文化向上を旗じるしに三刀屋中學の設置を県や国に要望した際、大いに賛同し、認可への運動にも参加した。経済的援助にも力を惜しまず設立運動へ活動資金を援助し、本校設立の費用に対しても寄付をした。本校設立を物心両面で援助した。


顕彰状

田部長右衛門殿

貴家　二十一代田部長右衛門様は　地域産業や社会教育に強い関心を抱かれました
明治初頭教育の重要性が叫ばれる中　殊に地域学校教育に深い理解を示され　三刀屋中學認可運動と建設の精神的支柱となり　又多大な経済的支援をして頂きました
本日本校開校百周年記念式典を挙行するに当たり　経済人としての斯かる数々の業績を偲び　深甚なる敬意を表すると共に　茲に広く顕彰いたします

令和六年四月十七日
島根県立三刀屋高等学校
開校百周年記念事業推進委員会

生徒代表挨拶

春の到来とともに、街を見守る山々の緑を暖かく感じる季節となりました。
本日、島根県立三刀屋高等学校　開校１００周年記念式典を多くの来賓の方をお迎えし盛大に挙行されますことに、心からお礼申し上げます。１００年という長きに亘る歴史の節目の年に立ち会うことができた喜びを感じるとともに、これまで本校に関わっていただいた方々への感謝の気持ちでいっぱいです。生徒を代表して心からお礼申し上げます。
さて、今日は開校記念日です。三刀屋高校が建っている場所は、開校以来変わっておらず、その場所を三刀屋が丘といいます。その三刀屋が丘に、一階に二つ、二階に二つ、合わせて四つの教室という日本一小さい校舎が誕生し、55名の入学生を迎え、三刀屋高校は開校したそうです。以来、生徒数が最も多いときで330人、全校で990人が学ぶ学校となり、数多くの先輩たちが三刀屋高校で学ばれ、私たちはその伝統を受け継いでいます。１００年という長い歴史のなかでご尽力いただいたみなさまのおかげで今日があると思うと、本校の伝統や校風をさらに発展させていかなければならないと強く感じています。
新型コロナウイルス感染症による制限が緩和された今、わたしたち三高生は学校内外の方との関係性がより強くなったと感じています。島根県内唯一の普通科型総合学科ならではのキャリア教育として取り組む未来創造探究では、１年次から地域の方とともに地域課題を見つけ、２年次には地域パートナーとなる地域の方とともに自ら地域課題を解決していく活動があります。２年次に行われる研修旅行では、他県の高校生と交流を行い、異なる地域間での意見交換を行なっています。自分では見えていなかったものが周囲の声に耳を傾けてみると見えてくる。そうして知見を広げるとともに自立性を高め、私達は学校生活においてその力を大いに発揮しています。

部活動では、三刀屋高校初となるプロ野球選手の誕生、演劇部や男女ソフトボール部の全国大会出場、吹奏楽部やダンス部の地域イベントへの参加など、どの部活動でも大きな成果を上げています。また生徒会を中心とし、地域貢献を目的とした町内の清掃活動を行いました。活動に対して地域の方々からも温かいお言葉をいただき、これからも地域とのふれあいを大切に、地域に役立つ活動をさらに活発に継続していきたいと考えています。校訓である「誠実・剛健　礼儀・規律　勤労・勉励」の精神に基づき、節目を迎えた三刀屋高校のさらなる発展を推し進めていくことが、わたしたち三高生の責務であると、気持ちを新たにしています。
１００周年を迎え新たな歴史を刻もうとしている今、この門出を多くの学校関係者のみなさまと迎えられることを改めて嬉しく感じています。
最後になりますが本日この開校１００周年記念式典にお越しくださいましたみなさま、この１００周年記念にあたりご尽力いただいた皆様に改めて感謝申し上げ、生徒代表の言葉といたします。

令和六年　四月十七日
生徒代表　桑　原　大　河

/記/念/公/演/

「永井隆物語」

放射線を研究し
放射線で数多の患者を救った隆は、
その代償として原子病を発症し
余命数年と宣告される。
妻に幼子の将来を託し
残りの人生を自らの体を冒す
原子病の研究に捧げると誓った
昭和二十年、
あの原子爆弾が長崎に投下された。
科学者として、医師として、父として、
そして神を信じる者として、
隆は後世に何を遺そうとしたのか――。

永井　隆　博士（1908-1951）

協力・参考・写真提供：雲南市永井隆記念館
写真提供：雲南市教育委員会

脚本・演出
亀尾　佳宏（かめお　よしひろ）氏
（島根県雲南市在住）

H16からH25まで三刀屋高校に勤務し、H26に掛合分校へ転勤してからも引き続き三刀屋高校演劇部の指導を続けている。昨年は木次線を題材とした『ローカル線に乗って』で全国大会優秀賞を受賞し、４度目の国立劇場での上演を果たした。雲南市創作市民演劇では毎年公募で集まった仲間と作品をつくり続け、三刀屋高校演劇部の卒業生たちも多く参加している。そのほか「劇王中国ブロック決定戦」優勝２回。「劇王XIアジア大会」第３位。2018年に出場した「神奈川かもめ演劇祭」では審査員票１位、総合第２位となる。日本演出者協会主催「若手演出家コンクール」では2014優秀賞、2021年最優秀賞。2022年３月には三刀屋高校、掛合分校、松江工業高校の生徒たちとともに東京・下北沢で卒業公演を行う。その過程を追ったドキュメンタリー映画『メロスたち』と2021年に掛合分校の生徒たちと撮影した『走れ！走れ走れメロス』は好評を博し、全国各地で上映が続いている。

支部通信

鳥取支部

高校生活の思い出と支部活動

鳥取支部幹事長　大島　伸【普27期　昭和50年卒】

私が本校に入学した昭和47年は連合あさま山荘事件、札幌冬季五輪大会、沖縄返還、山陰豪雨、日中国交正常化など様々な出来事がありました。

在学中の思い出は2年の後期と3年の前期に生徒会長を務めた生徒会活動です。この中で特筆すべきは「男子生徒の制帽」の是非です。

この校則について、男子生徒だけではなく女子生徒からも服装など全般のアンケートを行い、先生方の見解などを経て生徒会総会で「男子生徒の制帽自由化」が決定しました。

生徒会長在任中に開校50周年式典が開催されたことも貴重な思い出です。

初日の文化祭は招待した松江盲学校のブラスバンド部の生演奏、文化部の作品展や各クラスが趣向を凝らした催し物などがありました。私はＥＳＳ部だったので英語劇を演じました。

二日目の体育祭は一年生から三年生を六チームに分けて各種目を競い合いました。マスゲームの集団演技、応援合戦、競技後のサークルアトラクションも青春時代の懐かしい思い出です。

さて、雲南会鳥取支部は昭和五十八年、松江支部から独立して設立されました。以来、鳥取支部の活動、交流は平成五年九月に開催した交流ソフトボール大会があります。本校の男女ソフト部、米子松蔭の男女ソフト部、米子西の女子ソフト部を招いて、即席の鳥取支部員チームと交流試合を行いました。本校卒業後、米子松蔭や米子西で教員になった支部員がいる縁もあり、この楽しい企画が決定しました。

その他、支部員の交流として、早朝の弓ヶ浜海岸で家族連れの地引き網を楽しんだこともあります。又、紅葉の大山の麓で釣り堀を楽しみながら支部総会をしたこともあります。

本校はめでたく開校一〇〇周年を迎えました。鳥取支部も先輩や後輩と常に連絡を取り合い、いつまでも楽しい活動、交流が継続することを願っています。

三刀屋支部

令和五年度活動報告

三刀屋支部長　山田　稔　實【普15期　昭和38年卒】

三刀屋高校雲南会の皆さんには変わらずそれぞれの地域・立場でご活躍のことと存じます。この度会報原稿執筆の依頼がありましたので、当支部の最近の状況について報告します。まずは昨年の「五年度支部総会」の状況についてです。

私どもの支部では、この会を長い間毎年秋になって開催することが慣例になっています。五年度総会もいつも通り（といっても、昨年の場合はまたさらに後れて）十二月九日㈯三刀屋交流センターを会場に実施しました。私ども役員としては年に一度の支部会員の顔合わせということもあって、この会を何とか充実させたいーと考え、まず四月の初め役員会を開き、㈠今年度役員体制の確認と、㈡年間活動計画につき意見交換します。もちろん支部の皆さんにお知らせすべきことがあればこの時点でご協力をお願いしますが…。さらに二回目の役員会を開催間近に開き、総会提出の予定議題を取り纏め、予め案件を検討して当日を迎える運びとします。

昨年は前回よりやや少なめの二〇名弱の会合となりましたが、会場へは雲南会から佐藤会長、学校から本間校長と事務局の先生をお迎え出来ました。

まず、支部長挨拶として私が登壇の上現行活動状況と本日の審議事項について説明、続いて本間校長から生徒部活動を中心にした生徒の活発な状況が紹介され、参会者一同熱心にお聞きしました。続く佐藤会長の挨拶では、四ヶ月後に迫った式典の運び方を中心にそれに続く以後の事業全体にも触れていただき、お互い一〇〇周年事業の全体像を確認できたように思います。中でも、「一〇〇周年記念事業」を行うに当たって何をどう考えるべきか、これを通して何をどのような形で遺し、ひいては生徒諸君に何を期待するかーという話は、この事業を支える側として大変参考になり、又できる協力は精一杯したく思いました。

続いて会は議事に移り、幾つかの提案をしましたが、中でも㈠ここ数年コロナ禍によって活動の自粛による支出低減による余剰金を「一〇〇周年記念事業寄付金とすること、㈡記念祝賀会への助成」を行うことを提案、決議された所です。一方又参会者から、支部活動と会計の在り方について積極的な提議が有り、大いに参考になった次第です。

そして愈々総会の最後「学校紹介」として、卒業生・高野颯太選手のプロ野球ヤクルトスワローズ入団の話題、本校演劇部も出演したＮＨＫ松江放送局発ドラマ「島根マルチバース伝」などの紹介がありました。一同、在校生諸君の活躍振りに感心しきりーといったところでした。

この総会半月前の役員会において佐藤会長は、同窓会は皆んなと親交を深めるだけでいいーとする意見もあるが、これだけでは組織はいづれ退廃し、壁に直面することになる。私どもは意見の違いを越えて、斯くありたい、こうしたいという信ずる所を語り合うことが重要だ、という挨拶がありました。

朝夕母校へ登下校する後輩を見掛けるにつけ、学校の地元支部として、絶えず組織の在り方を模索しながら、引き続き雲南会を下支えして行きたく思います。

令和５年度 島根県立三刀屋高等学校雲南会　会計決算書

【収入の部】　（単位：円）

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
入会金	2,010,000	1,937,000	△73,000	会費5,000円
特別会費	450,000	450,000	0	33期、35期、45期
活動協賛金	411,778	411,778	0	活動協賛金(3月31日現在、299名より)
繰入金	500,000	500,000	0	特別会計より
雑収入	12	1,536	1,524	寄付金、預金利息
合計	3,371,790	3,300,314	△71,476	

【支出の部】

項目	予算額	決算額	予算残額	摘要
総会費	400,000	400,000	0	総会経費(高44期)
支部総会費	270,000	270,000	0	東京･鳥取･三刀屋･木次･温泉･日登･斐伊･掛合･一宮
活動費	1,500,000	1,346,996	153,004	会報発送経費･サラト11,806通発送
印刷費	320,000	346,500	△26,500	会報印刷経費12,400部、会計報告書
役員会費	10,000	0	10,000	
卒業記念品	67,000	75,944	△8,944	証書ファイル132冊
慶弔見舞金	10,000	0	10,000	
通信費	40,000	146,730	△106,730	郵券代
旅費	550,000	364,352	185,648	鳥取へ１名、東京へ２名、総会帰省５名
事務費	5,000	0	5,000	
雑費	16,000	25,838	△9,838	卒業アルバム保存用、クラス写真、お土産代
予備費	183,790	24,395	159,395	
繰出金	0	299,559	△299,559	令和5年度の繰越金を特別会計へ
合計	3,371,790	3,300,314	71,476	

収入総額 3,300,314円 － 支出総額 3,300,314円 ＝ **差引残高 0円**

上記監査の結果内容の正確なる事を認めます

令和6年7月24日　監事　古林　茂　印

令和５年度 島根県立三刀屋高等学校雲南会　特別会計決算書

【収入の部】　（単位：円）

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
前年度繰越金	7,571,927	7,571,927	0	
繰入金	809,658	1,109,217	299,559	前年度一般会計残金
雑収入	65	67	2	預金利息
合計	8,381,650	8,681,211	299,561	

【支出の部】

項目	予算額	決算額	予算残額	摘要
激励金	500,000	310,000	190,000	中国・全国大会出場
繰出金	3,500,000	3,500,000	0	一般会計50万、周年事業300万
予備費	4,381,650	0	4,381,650	
合計	8,381,650	3,810,000	4,571,650	

収入総額 8,681,211円 － 支出総額 3,810,000円 ＝ **次年度繰越金 4,871,211円**

上記監査の結果内容の正確なる事を認めます

令和6年7月24日　監事　古林　茂　印

周年記念に憶う

彼らも行き、我らも行き、
今 君らも行く、この道や、
遂（つい）に遥（はる）かなるかな

土岐善麿・歌人
（一八八五～一九八〇）

卒業40周年

卒業四十周年を迎えて

昭和59年卒業　普36期
小林泰造

先日、最後の寄付金集めの為、十年ぶりの同窓会を開催いたしました。卒業四十周年の同窓会です。四十五名の参加で盛大に執り行う事が出来ました。とはいえ、十年前の三十周年同窓会と比べると約三十人減でした。残念ではありますがこれが年齢を重ねる事なのだと感じました。正直申しますと、母校への寄付金集めと言う大義のもとに同窓会を開催してまいりましたが、集まった仲間たちは高額の会費を払いながらも、寄付金の事には触れる事なく只々、再会を喜んでいたように感じます。中には、卒業以来の再会となる人もいて、大いに盛り上がった同窓会となりました。そして、皆が遠い記憶を手繰り寄せ、今回もタイムスリップをする事が出来ました。感謝です。

何に感謝するかと申しますと、やはり、「雲南会」の存在です。儀礼的ではありますが、少なくとも十年には一回、同窓会を開く事が出来たわけです。やはり、感謝です。ありがとうございます。在校生は勿論、全ての卒業生の為にあるのだなと、やっと理解出来たような気がします。特に、今年は、三刀屋高校開校百周年の年でもありまして、百周年記念事業が開催され喜ばしい限りです。今後も、脈々と受け継がれる「雲南会」に貢献できればと思います。

来年、還暦を迎える私たち三六期卒業生は、ほぼ、人生の２／３を生き抜き、残りの１／３をいかに充実した人生にするかを話し合う為に、五年後の再会を誓って散会いたしました。（十年待つには長すぎるので…）

ありがとうございました。

開校一〇〇周年記念事業
― 進捗状況について ―

三刀屋高等学校事務長　石倉智之

これまで10年毎の周年期事業毎に、本校では「記念事業推進（又は「実行委員会」）」を結成し、記念式典の開催や記念史（誌）を発行するとともに、学校活性化のための記念事業として教育環境の整備を鋭意行うことにより、生徒達の教育活動推進の助成を行ってまいりました。

このたびの開校１００周年にあたっても、令和４年８月学校・ＰＴＡは元より地元雲南市及び同窓会「雲南会」、体育後援会の参画も得「開校１００周年記念事業推進委員会を結成、計画から準備・実行へと順次進めて参りました。

まず、事業に係る経費につきましては、雲南会特別会計からの繰入金、生徒・教職員・卒業生等からの積立金や寄付金などを基礎として事業計画作成に着手、これまで約２年、鋭意事業を進めてきました取り組み状況の中間的報告をいたします。

まず事業の元手・収入の大半を占める寄付金につきましては、令和５年１月から令和６年12月までを募金期間として呼び掛けているところです。現在（９月初時点）当初目標額１６５０万円に対し、募金額は90％を超える状況となっています。

この中今回は特に、各組織・団体の方々にも大きなご尽力をいただき、広く地域の法人・団体の方にも寄付を広げていただきました。その結果、１３０に及ぶ団体・組織の皆様から多額のご寄付をしていただきました。これは、一般寄付総額のうちの約四割を占めるに至っております。報告旁々厚くお礼申し上げます。

これに対する支出としましては、事業に係る経費全般についての報告となります。まず、４月17日挙行された開校１００年記念式典の経費について、です。これにつきましては、式典の栞・パンフレット類の印刷費、さらには創立功労者の皆さんへの顕彰状印刷費・額、その際合わせて贈呈された記念品（盾）等の準備・作成、祝賀会も合わせた各会場の借り上げ費、また式典前日と当日の二日間『山陰中央新報』に掲載した広告費等がありますが、これらに関しては支払いを既に終えたところです。

加えて来年３月発行予定の「百周年記念誌」は現在、鋭意編集作業が続けられていると承知しております。

他方、多額な費用を要する校内施設設備費があります。これにつきましては、調理室へのエアコン設置、モニュメントの作成、ＩＣＴルームの整備などが計画されています。中でもそれらの中心であるエアコン設置についての工事発注は既に終えたところです。これによって、施設整備関係予算の約40％が執行済みとなりました。

以上概略の報告で恐縮ですが、何卒今後とも 変わらぬご支援をいただきますよう宜しくお願い致します。

令和四年秋「募金趣意書」概要

○収入　三〇〇〇万円
　教職員・生徒積立金
　その他
　（雲南会特別会計、補助金）
○支出
　(一)校内整備事業　一五〇〇万円
　内訳
　記念碑　一〇〇万円
　校舎内外関係費　七〇〇万円
　（一人一台端末用ロッカー、調理室冷房設備）
　部活動関係費　七〇〇万円
　（ミーティング・トレーニングルームの一部　奏楽部楽器購入）
　(二)その他
　内訳
　記念誌　六〇〇万円
　記念式典等　二七〇万円
　記念品　二〇〇万円
　広告費　一〇〇万円
　人件費その他　三三〇万円

本紙は表題の「１００周年記念特集号」で前号より二頁増頁。紙面をお借りして、事業に対する募金活動もあと３ヶ月となった現時点の大まかな状況を茲にご報告致します。

～お知らせとお願い～

(一)「１００周年記念事業募金」について

■この募金は「趣意書」に今年12月31日迄と記しております。しかし開設募金口座は、設置者が口座取り下げ申請をしない限り口座自体は開設継続したままです。

今のところ、「記念事業推進委員会」は事業の一応の終わりをみると思われる来年３月末「解散式」を予定していますので、少なくとも此処まではこの口座への振込は可能です。志ある方でまだ振込をしていらっしゃらない方には、ぜひお願いしたく思います。

■他方、以前「趣意書」とともに送付しました「振込用紙」をなくされた方について、です。もし、「１００周年記念事業」の方に払い込み希望があれば、本紙一頁／編集・発行欄下の「協賛金振替口座」へ送金して頂き、その際「振込用紙・通信欄」へその旨明記していただくと、学校でそのように集計措置することができますので、宜しくお願いします。

(二)「活動協賛金振込」について

■従来通り、常時口座を設置しています。振り込みしていただく額は一応一口千円となっております。（但し、一口の場合は、郵便局はもとより、コンビニ、スマホアプリでも振り込みが可能ですが、複数口ご協力いただける方は、お手数ですが郵便局でお振り込みくださいますよう宜しくお願いします。

後輩生徒の皆さんの教育活動支援のために、協働協力して頂ければ・・と存じます。

（文責／佐藤）

校友探訪 シリーズ

第三回目の校友探訪は、昭和49・3卒　木次町出身の藤原孝行氏です。
氏は、在学中テニス部にも所属し、ご活躍だった―とか、当時学友だった人からお聞きしました

私が歩んだ五十年

普26期　島根県信用保証協会会長　**藤原　孝行**
―元島根県教育長、島根県副知事―

今年4月に開催された「三刀屋高校開校100周年記念式典」に参加させていただいたが、私たち高校26期は、1974年に三刀屋高校を卒業してちょうど50周年であり、改めて開校50周年という切りのいい年に卒業していたのだなと感じたところである。

私の高校時代を振り返ってみると、何と言ってもテニス部での活動が思い出深い。1年生で入部したのは10人だったが、2年生が一人もいなかったので、県総体が終わって3年生が引退した6月から、私はいきなりキャプテンを務めることとなった。そして顧問の石倉先生のすぐれた指導やOBの方々の練習参加による熱心な応援などもあって、2年生の時には、中国大会にも出場することができた。

3年生の総体まで頑張って部活動を続けた後受験勉強を始めて、京都大学に入学することができたわけだが、バスケット部キャプテンの講武君が筑波大学に、卓球部キャプテンの石飛君が広島大学に合格したこともあって、それまで三刀屋高校では進学する者は、2年生の新人戦が終わると部活を引退するといった習わしがあったそうだが、それが私たち以降からなくなったということである。

テニスについては、大学、そして県庁に入ってからも続け、1982年のくにびき国体では、強化選手にも選ばれた。そして今もやっており、シニアの県大会などにも参加している。同級生の松林君もテニスを続けていて、お互いに調子がいいと決勝戦で当たったりすることもあり、大会で顔を合わせることが楽しみである。

大学を卒業して県庁に入ったが、30代のころ「県庁のイベントやさん」と呼ばれ、色々なことに取り組んだことが心に残っている。様々な文化事業を支援する22億円の「しまね文化ファンド」を設けたり、県民参加のミュージカル「愛と地球と競売人」を県民会館の恒例事業としたり、「しまね映画祭」をスタートさせたりした。

教育長の時に、三刀屋高校の90周年記念式典があり、高校設置者として出席させていただいた。教育長時代で印象に残っていることは、当時、高校の分校は今市分校、佐田分校と廃止してきていたが、掛合分校については、三刀屋中学の校長だった同級生の渡部君がその必要性を強く主張していたことから、私も分校を訪問したところ、とてもいい教育が行われており、生徒数もそれなりに確保できていたので、継続することとしたことである。

副知事の時には、溝口知事が任期中何度か入院され、知事職務代理者を務めたことが強く印象に残っている。また、園遊会に招かれ、当時の安倍首相と一緒に写真を撮らせていただくといった幸運な場面もあった。一緒に写っている妻も三刀屋高校の卒業生であり、3年間同じクラスだった。

現在は、島根県信用保証協会会長として、県内中小企業の支援を行っているが、今でも様々な場面が鮮明に浮かぶ高校時代の気持ちを忘れずに、これからもはつらつと生きていきたい。

祝賀会　乾杯の音頭をとる藤原氏

藤原 孝行 氏
高校26期／木次町出身

- ●1974年　京都大学経済学部入学
- ●1978年　島根県庁入庁
- ●2010年　島根県政策企画局長
- ●2014年　島根県教育長
- ●2016年　島根県副知事
- ●2020年　島根県信用保証協会会長

母校だより

（1）進路概況

■ 令和５年度合格数（延べ数）

	国公立大学	私立大学	公立短大	私立短大	看護・医療専門	各種専門	大学校等	民間就職	公務員	進学準備等	合 計
現役	27	94	6	2	19	28	1	16	7	2	202
過卒		2									2
合計	27	96	6	2	19	28	1	16	7	2	204

■ 主な合格校

国公立大学	鳥取大、島根大(5)、岡山大、広島大(2)、山口大、愛媛大、公立鳥取環境大(2)、島根県立大(9)、尾道市立大、周南公立大、山口県立大、北九州市立、長崎県立大
私立大学	秀明大、青山学院大、桜美林大(2)、駒沢大(2)、創価大、神奈川大、京都産業大(3)、京都橘大(8)、同志社大、大阪学院大(2)、大阪経済大(5)、大阪経済法科大、大阪芸術大、関西外語大、関西学院大(4)、甲南大(2)、神戸学院大、神戸常盤大、天理大、鳥取看護大、岡山理科大(5)、川崎医療福祉大、吉備国際大、くらしき作陽大(2)、山陽学園大(2)、就実大(2)、美作大、環太平洋大、日赤広島看護大、広島経済大(18)、広島国際大(6)、広島修道大(8)、福山大、福山平成大、安田女子大(2)、松山大
公私立短期大学	津市立三重短期大、島根県立大短大(5)、大阪芸術大短大部、広島文化学園短大
看護・医療福祉系専門学校	島根県歯科技術専門(2)、松江総合医療専門、島根リハビリテーション学院(3)、出雲医療看護専門(3)、トリニティカレッジ出雲医療福祉専門、浜田医療センター附属看護(3)、東洋医療専門、朝日医療大、岡山労災看護専門、玉野総合医療専、MSH医療専門、広島県立三次看護専門
専門学校ほか	島根職業能力開発短大、名鉄自動車専門、トヨタ名古屋自動車大、大阪ヴェルエベル美容専門、関西美容専門、ESPエンタテインメント大阪、神戸電子専門、出雲コアカレッジ(3)、坪内総合ビジネスカレッジ(4)、松江栄養調理製菓専門(3)、松江理容美容専門、岡山理科大学専門(2)、穴吹デザイン専門、辻学園栄養専門、広島工業大学専門、広島酔心調理製菓専門、広島ビューティー＆ブライダル専門、広島美容専門、広島リゾート＆スポーツ専門、広島理容美容専門、ヒューマンアカデミー広島校

（2）就職概況

■ 求人状況

年　度	R5
県内求人	176
県外求人	854
計	1,030

■ 就職内定先

県内	株式会社 アルプロン 島根工場
	株式会社 出雲村田製作所
	株式会社 コスモス薬品
	株式会社 ジェイ･エム･エス 出雲工場
	株式会社 ネスター 島根工場
	株式会社 リサ･クリエイティブプロダクツ
	社会福祉法人 島根ライトハウス
	社会福祉法人 有隣会(特別養護老人ホーム 梅里苑)
	日本コルマー株式会社 出雲工場
	パナソニックソーラーシステム製造株式会社
	ホシザキ株式会社 島根工場
	有限会社 日登工業
県外	東京ヤクルトスワローズ

■ 公務員合格者

採　用　種　別	R5
国家公務員（一般事務）	1
島根県職（一般事務）	2
島根県警（事務）	1
雲南市職	2
大阪府警	1
合　　計	7

部活動報告

JRC部

全国高校生ボランティアアワードへ出場して

このたびは全国高校生ボランティアアワードへの代表出場に際し、温かい励ましの言葉と激励金をいただきありがとうございました。

8月5～6日、東京都庁前の三角広場で「三刀屋から世界へ！～三刀屋の梅とフェアトレードの輪を広げよう～」を、来場者一万人に思いっきりアピールでき、全国のボランティア仲間や専門家の方と交流でき、たくさんの刺激を受けることができました。詳しくは学校のホームページや私たちのインスタグラムを見ていただけるとうれしいです。

主催者のさだまさしさんもおっしゃっていましたが、私たちは日頃、地味な草の根のような活動をしていて、「ほんとにこれで人の役に立っていると言えるのかな？」と自信をなくす時もあります。ですが一年に一度はこのような大舞台に立たせていただいて、たくさんの方々から顕彰していただいて、日本全国の仲間と交流ができて、工夫していることや、苦労していることも共有できて、「ああやっぱりやってよかった！」「これからも頑張ろう」「この点はこんなふうに改善しよう」というエネルギーと見通しをもつことができました。結果としては、特別賞の十校には選ばれませんでしたが、入賞として表彰状を授与され、顕彰していただきました。

この経験をすぐに後輩たちにも伝え、思いを共有し、地域での活動に活かします。今後とも応援、よろしくお願いします。かしこ

追伸　同封した梅の花のしおりと名刺は話を聞いてくださる全国の皆さんを思いながら、心を込めて手作りしたものです。今後は地域で梅の企画をするたびに配る予定です。ぜひ使ってもらえると嬉しいです。

令和六年八月十日
三刀屋高校ＪＲＣ２年生一同
雲南会　佐藤会長様

（注記・本文はこの度全国大会へ代表出場し、その報告を雲南会宛に頂いたお礼文です。これは学校及び部の皆さんに掲載の了承を頂いております。日頃の活動や思いに溢れた文章をぜひ皆さんにご紹介したく、ＪＲＣ部活動報告として転載しました）

男子ソフトボール部

大会報告

主将　石飛　陽帆

私達、男子ソフトボール部は7月27日より長崎県大村市で開催されたインターハイに出場しました。結果は二回戦敗退となりチームの目標としていたベスト8には届きませんでした。試合の中ではこれまでの練習の成果を出しながら、ソフトボールを楽しむことができました。インターハイという舞台に立つまでの時間、そしてその舞台に立つことができたということはとても貴重な経験となりました。部活動という短い時間の中で仲間たちと汗を流し、コミュニケーションを取り合い一つのゴールを目指すことはかけがえのないものでした。そして当たり前に部活ができる環境にあったことを嬉しく思います。応援ありがとうございました。

【試合結果】
1回線　三刀屋高校 9－0 京華高校(東京)
2回線　三刀屋高校 0－7 星稜高校(石川)

女子ソフトボール部

大会報告

主将　内藤　紗和

2024年のインターハイにおいて、三刀屋高校女子ソフトボール部は意気込みを持って臨みましたが、2回戦で敗退する結果となりました。初戦、熊本県代表玉名女子高校と対戦しました。チーム全体が一致団結し、自分たちらしくプレーし勝つことが出来ました。2回戦では、岩手県代表花巻南高校と対戦し最後まで粘り強くプレーしたものの、点差をつけられ敗れてしまいました。この結果には悔しさがありますがこの大会での敗退は、私たちにとって新たな目標を探し、成長する機会となりました。応援してくださった保護者や地域の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。今後もさらなる高みを目指し、チーム一丸となって努力を続けていきます。

【大会結果】
1回線　三刀屋高校 5－4 玉名女子高校(熊本)
2回線　三刀屋高校 0－10 岩手県立花巻南高校

文芸部

全国大会報告

部長　野中　風花

八月二日から四日にかけて岐阜県飛騨古川町で行われた全国高等学校総合文化祭の散文部門に参加しました。

一日目は開会式と文学研修で、文学研修では飛騨の里と古川の町並みの散策を行いました。伝統文化を学ぶことができ、また沢山の可愛い鯉に餌をやることもできました。

二日目は全体交流会と部門別交流会でした。全体交流会では岐阜県に関するクロスワードパズルを県ごとに協力して行い、部門別交流会ではすべての作品について他県の生徒からの感想やお二人の講師の先生の講評をいただきました。

三日目は講演会と閉会式がありました。講演会では『小説を読むこと、書くこと』というテーマで小説家の中村　航先生、脚本家の作道　雄先生にお話しいただきました。

今回の総文祭で学んだことをこれからの文芸活動にいかしていきたいと思います。

演劇部

全国大会報告

生徒講評委員　陶山　桔平

私は岐阜県で行われた全国高等学校総合文化祭演劇部門に生徒講評委員として出場しました。生徒講評とは観劇した作品について何を感じ、どうしてその感情が生まれたのか、などを考え、集団討論を行いながら劇への理解を深めるための活動です。他校の生徒と上演について話をし、改めて演劇の良さを再確認し、知識なども深められる貴重な経験になりました。初めての生徒講評委員としての参加でわからないことが多く、不安も大きかったですが、今大会を通して仲間と協力して活動することの大切さなど様々なことを学び、成長することができました。応援してくださったみなさま本当にありがとうございました。

部活動紹介

美術部

部長　星野　琴美

美術部は、2年生8名、1年生1名の計9人と顧問の高橋先生と共に、週4日、ビジュアルCGデザイン室・デッサン絵画室で活動をしています。普段の活動内容は、主にポスターや読書感想画の制作などです。また、年に3回講習会に参加しています。他校の生徒の作品も見る事ができるので、自分の作品の改善点、他校の作品の良い部分を学べる大切な機会になっています。そして毎年9月頃からは、1年間で最も大きなコンクールである高校美術展に向けて作品を制作します。今までの力を発揮する事ができるよう細部にまでこだわるので、完成後に大きな達成感を得る事ができます。絵を描くことは難しく大変なことも多いですが、それを乗り越えた時に成長と達成感を得ることができ、楽しく活動できていると感じています。

吹奏楽部

部長　秋山　穂波

私達は3年生12名、2年生9名、1年生12名の計33名で活動しています。夏に行われるコンクールをはじめ壮行式や学園祭などの学校行事や地域でのイベントで演奏しています。8月に行われた全日本吹奏楽コンクール島根県大会では銀賞を受賞しました。目標としていた金賞には届きませんでしたが、本番では部員一人ひとりが最後まで諦めることなく演奏することができました。また、これからのシーズンはアンサンブルコンテストをはじめ様々な地域のイベントに向けて練習していきます。そして3月には定期演奏会をチェリヴァホールにて予定しているのでぜひお越しください。

男子バスケットボール部

主将　岡田　光暉

私たち男子バスケットボール部は、多賀先生のご指導のもと、県総体ベスト8を目標に活動しています。学年問わず仲が良く、意見を出し合えるのが私たちの強みです。時には意見がぶつかりもめることもありましたが、繰り返すたびに、より強いチームになってきました。

昨年度、新人戦や総体の直前にけがや病気が多く、どちらも初戦敗退という結果に終わってしまいました。しかし、遠征では県外のチームとの対戦も多く、バスケットボールだけではなく集団行動をする上で必要なことや人間性を磨くことも大切に活動しています。

新チームの目標は県総体ベスト8、出雲地区大会優勝です。これからも応援をよろしくお願いします。

編集後記

▼北陸では、一月の地震に続き今月又豪雨災害に見舞われ、大変な状況下にあります。自然災害とはいえ、あまりの過酷さに言葉もありません。こんな時こそ皆が心を一つにして、北陸の方々を支えなければ、と思います。

▼しかしそのような困難の間隙（かんげき）を縫って、今夏大社高校野球部は甲子園で大活躍、何とも言えない素晴らしい感慨に我々を浸らせてくれました。

友情、他者への思い、覇気、謙虚 etc―その感慨とは、純粋な若者のそんな心意気に触れ、共に同じ時代を生きる者とし共感を覚えたのかも知れません。そしてそのことにこれほどまでに惹かれたのは、同時にひょっとして既にそれらを失いかけている自分のあの頃への、「懐古」だったのかも知れません。

▼令和三年度末、本校会報発刊の歴史を詳細に検証し、『復刊』四年度発行紙を「復刊52号」としました。以降、会報発行は六月末に―とし進めて来ましたが、復刊三号目の今年も又三ヶ月遅れの発行となってしまいました。

今年は特に１００周年式典・事業もあり、その様子や事業の進捗状況を早く会員の皆さんにお知らせしたかったのですが……執筆して頂いた方々に申し訳なく思っています。「仏の顔も三度」とか、来年度こそは、と強く思いながら「編集後記」を書いています。

▼本紙は１００特集号として、四頁まで式典等の様子をお伝えしました。これまで様々な立場であるいは形で本事業に協賛いただきましたこと、紙面を借りてお礼申し上げます。

▼四月十七日の式典で一区切り付いた―と思いきや、今もう早、只只茫漠たる思いの中の秋天・・・。本紙をもって編集を事務局へお返しすることになります。学校と協力して会報編集をしてみませんか？コーヒーでも飲みながら、雑談会を兼ねて・・・。（さ）

〈編集＝広報の充実検討委員会〉
室下義富／本紙題字揮毫（18期）
佐藤　茂（18期）
妹尾福子（20期）
須山哲好（22期）
奥井　満（23期）
古林　茂（27期）
藤原重信（28期）